シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校

作業療法学科　3 年

2025 年度

シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤　年度	学　期	⑦	
年　次	⑥　年次	授業回数	⑧　回	
単 位 数	単位	単位時間数	時間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

授業スケジュールと内容

回	内　容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑪		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料　等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

①　授業科目名

②　担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

③　実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

⑤開講年度

⑥年次

授業を受ける学年です。

⑦学期

前期　・・・4 月～9 月

後期　・・・10 月～3 月

通年（全期）・・・1 年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑧授業回数

⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1 回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習➡授業➡復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

【授業を受ける前に】

1．科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2．授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3．各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4．使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5．「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6．「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7．提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

別表Ｉ－5

作業療法学科　授業科目一覧

区分	カリキュラム	授業科目名	指定規則	学校指定		一年生				二年生				三年生				四年生			
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
			単位数	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	14	2	30	2	30														
		物理学		2	30	2	30														
		健康科学		2	30															2	30
		人間関係		2	30	2	30														
		福祉論		2	30	2	30														
		英語Ⅰ		2	30	2	30														
		英語Ⅱ		2	30			2	30												
		生物学		2	30	2	30														
		公衆衛生学		2	30							2	30								
		情報科学		2	30	2	30														
		統計学		2	30	2	30														
基礎分野・小計			14	22	330	16	240	2	30			2	30							2	30
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	12	4	60	4	60														
		解剖学Ⅱ		4	60			4	60												
		生理学Ⅰ		4	60	4	60														
		生理学Ⅱ		4	60			4	60												
		生理学実習		＊1	＊30			＊1	＊30												
		運動学Ⅰ		4	60			4	60												
		運動学Ⅱ		2	30					2	30										
		運動学実習Ⅰ		＊1	＊30			＊1	＊30												
		運動学実習Ⅱ		＊1	＊30					＊1	＊30										
		人間発達学		2	30					2	30										
	疾病と障がいの成り立ち及び回復過程の促進	病理学	12	4	60			4	60												
		臨床心理学		4	60			4	60												
		医学概論・一般臨床医学		4	60					4	60										
		内科学・老年学		4	60					4	60										
		整形外科学		4	60							4	60								
		臨床神経学Ⅰ		4	60					4	60										
		臨床神経学Ⅱ		4	60							4	60								
		精神医学Ⅰ		2	30					2	30										
		精神医学Ⅱ		2	30							2	30								
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2	2	30	2	30														
		リハビリテーション医学		2	30					2	30										
専門基礎分野・小計			26	63	990	10	150	22	360	21	330	10	150								
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	35	2	30	2	30														
		基礎作業学総論Ⅰ		2	30			2	30												
		基礎作業学総論Ⅱ		2	30					2	30										
		基礎作業学実習Ⅰ		＊1	＊30			＊1	＊30												
		基礎作業学実習Ⅱ		＊2	＊60					＊2	＊60										
		基礎作業学実習Ⅲ		＊2	＊60							＊2	＊60								
	作業療法管理学	管理運営研究論		2	30															2	30
	作業療法評価学	身体の評価Ⅰ		2	30							2	30								
		身体の評価Ⅱ		2	30									2	30						
		精神の評価Ⅰ		2	30							2	30								
		精神の評価Ⅱ		2	30									2	30						
		発達の評価Ⅰ		2	30							2	30								
		発達の評価Ⅱ		1	15									1	15						
		家族機能の評価		2	30							2	30								
		作業療法評価学実習Ⅰ		＊2	＊60							＊2	＊60								
		作業療法評価学実習Ⅱ		＊2	＊60									＊2	＊60						
	作業療法治療学	身体疾患と障害Ⅰ		2	30							2	30								
		身体疾患と障害Ⅱ		2	30									2	30						
		身体疾患と障害Ⅲ		2	30											2	30				
		精神疾患と障害Ⅰ		2	30							2	30								
		精神疾患と障害Ⅱ		2	30									2	30						
		精神疾患と障害Ⅲ		2	30											2	30				
		老年期障害		2	30											2	30				
		生活の再構築		2	30									2	30						
		発達の構築		1	15											1	15				
		家族機能の再構築		2	30									2	30						
		治療環境の構築		2	30									2	30						
		作業治療学実習Ⅰ		＊1	＊30									＊1	＊30						
		作業治療学実習Ⅱ		＊1	＊30											＊1	＊30				
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ		1	15									1	15						
		地域作業療法学Ⅱ		2	30															2	30
		地域作業療法学実習		＊1	＊30									＊1	＊30						
	臨床実習	基礎実習	18	＊1	＊45			＊1	＊45												
		評価実習		＊8	＊360											＊8	＊360				
		評価実習セミナー		＊1	＊30											＊1	＊30				
		臨床実習		＊18	＊810													＊18	＊810		
		臨床実習セミナー		＊1	＊30													＊1	＊30		
専門分野・小計			53	86	2,310	2	30	4	105	4	90	16	300	20	360	17	525	19	840	4	60
選択必修		栄養学		2	30															2	30
		薬理学		2	30									2	30						
		言語聴覚療法		2	30					2	30										
		基礎知識の統合		8	120															8	120
		卒業研究		4	60															4	60
選択必修科目・小計			－	18	270					2	30			2	30					14	210
合計			93	189	3,900	28	420	28	495	27	450	28	480	22	390	17	525	19	840	20	300

注1) ＊は実習科目の単位（学内実習及び臨床実習）　　注2) 講義及び演習の科目については30時間の授業をもって2単位、学内実習科目は30時間の授業をもって1単位、臨床実習科目は45時間の授業をもって1単位とする。

2020年度入学生～

作業療法学科 カリキュラム・マップ		１年次		２年次		３年次		４年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎科学・基礎医学（共通科目）	医学に総合的に関係する知識	心理学 物理学 英語Ⅰ 生物学 情報科学 統計学 人間関係 福祉論	英語Ⅱ		公衆衛生学 人間発達学				
	医学基礎	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ **生理学実習** 運動学Ⅰ **運動学実習Ⅰ**	運動学Ⅱ **運動学実習Ⅱ**					
	疾病と障害に関係する知識		病理学 臨床心理学	医学概論・一般臨床医学 臨床神経学Ⅰ 精神医学Ⅰ 内科学・老年学 言語聴覚療法	整形外科学 臨床神経学Ⅱ 精神医学Ⅱ	薬理学			健康科学 栄養学
	リハビリテーションの成り立ち	リハビリテーション概論		リハビリテーション医学					
基礎作業学・作業療法学（専門科目）	臨床実習		**基礎実習**				**評価実習** **評価実習セミナー**	**臨床実習** **臨床実習セミナー**	
	作業療法の知識の統合								基礎知識の統合 卒業研究
	作業療法の成り立ち	作業療法概論							
	作業療法の基礎・基本		基礎作業学総論Ⅰ **基礎作業学実習Ⅰ**	基礎作業学総論Ⅱ **基礎作業学実習Ⅱ**	**基礎作業学実習Ⅲ**				管理運営研究論
	作業療法の評価・治療			【身体障害領域】	身体の評価Ⅰ 身体疾患と障害Ⅰ	身体の評価Ⅱ 身体疾患と障害Ⅱ	身体疾患と障害Ⅲ		
				【精神障害領域】	精神の評価Ⅰ 精神疾患と障害Ⅰ	精神の評価Ⅱ 精神疾患と障害Ⅱ	精神疾患と障害Ⅲ		
				【発達障害領域】	発達の評価Ⅰ	発達の評価Ⅱ	発達の構築		
				【老年期障害領域】			老年期障害		
				【総合・地域】	家族機能の評価	家族機能の再構築 地域作業療法学Ⅰ 生活の再構築 治療環境の構築			地域作業療法学Ⅱ
				【実習】	**作業療法評価学実習Ⅰ**	**作業療法評価学実習Ⅱ** **作業治療学実習Ⅰ** **地域作業療法学実習**	**作業治療学実習Ⅱ**		

授業科目名	身体の評価Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	①大橋由美子		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	作業療法の身体領域のうち、脳血管障害を代表とする脳損傷における患者の割合は高く、それらの患者は運動麻痺だけでなく、高次脳機能障害を有し、ADL 自立の妨げになることも多い。ADL の自立度を上げることや患者が「その人らしさ」を持って生活の質を向上するには、高次脳機能障害に対して適切にアプローチをする必要がある。高次脳機能障害は一見複雑だと思い敬遠する学生が多いが、その突破口を見つけることで一気に面白さが増す領域であると考えている。この授業を通して、「高次脳機能障害」や「脳と心の関係」についての面白さに気付くのを望んでいる。			
授業科目の到達目標	❏ 脳の働きを理解し、脳と心の関係について興味関心を持つことができる ❏ 高次脳機能障害における作業療法士の視点を理解できる ❏ 脳の機能局在と高次脳機能障害の各症状について理解できる ❏ 脳画像について CT・MRI を中心に基本的な読解が可能になる ❏ 高次脳機能障害の各検査の概要を把握し、患者に適切な検査を選択できるようになる ❏ 臨床で良く使用する検査について、検査方法を理解し、結果を適切に分析することが可能になる			

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	高次脳機能障害概論 p8～ ・脳の機能局在論　・脳の側性化と優位半球 ・神経心理学検査とは	講義	チェックリスト
2	意識障害の評価 1)62～ ・意識障害の分類　・意識障害の評価（JCS と GCS） ・軽度意識障害の評価　・せん妄と傾眠	講義	チェックリスト
3	注意障害の評価 1)62～ ・ 注意障害の分類　・注意の神経ネットワーク ワーキングメモリと注意　・注意機能の検査	講義	チェックリスト
4	記憶障害の評価 1)156～ ・ 記憶の種類　・短期記憶と長期記憶 前向性健忘と逆向性健忘　・記憶の検査	講義	チェックリスト
5	半側空間無視の評価 1)95～ ・ 半側空間無視とは　・空間性注意の脳内機構 病巣と重症度　・BIT の実際　・ADL での症状	講義	チェックリスト
6	無視症候群の評価、失認の評価 1)121～ ・病態失認、運動無視、バリント症候群、パラフレニアなど、半側空間無視に関連する症状について説明	講義	チェックリスト
7	行動・行為の障害の評価（1)p193～ ・ 失行について（古典的失行と新しい失行の捉え方） 失行の評価、考え方	講義	チェックリスト
8	行動・行為の障害の評価（2）1)p193～ ・ 行動抑制障害（他人の手徴候、拮抗失行など） 脳梁離断症候群	講義	チェックリスト

9	前頭葉関連症状　1)219～ ・ 前頭葉の機能と他の脳部位とのネットワーク ・社会的行動障害の評価	講義	チェックリスト
10	遂行機能障害　1)219～ ・ 4つの要素について　・SAS について 遂行機能障害検査(BADS)の実際	講義	チェックリスト
11	認知症の評価　2)配布資料 ・認知症の種類　・認知症の評価スケール ・評価尺度　・作業療法評価	講義	チェックリスト
12	脳画像の見かた 2)配布資料 ・ CT と MRI それぞれの特徴　・ 脳損傷(脳出血、脳梗塞など)の画像診断	講義	チェックリスト
13	検査方法から高次脳機能障害を読み解く(1)　配布資料 高次脳機能障害で用いられる検査について実際の用紙や器具を用いて、検査方法や手順を学ぶ	講義	チェックリスト
14	検査方法から高次脳機能障害を読み解く(2)　配布資料 高次脳機能障害で用いられる検査について実際の用紙や器具を用いて、検査方法や手順を学ぶ	講義	チェックリスト
15	定期試験 基本的には、チェックリストを改変して出題する。	試験	

使用テキスト	ゴールドマスター・テキスト「高次脳機能障害作業療法学」 その他配布資料あり
参考書・資料　等	脳画像：前田真治著／医学書院 高次脳機能障害学第 3 版：石合純夫
この授業科目の前提となる主な科目	臨床神経学(2 年前後期)、身体の評価Ⅰ(2 年後期)
この授業科目から発展する主な科目	作業治療学実習Ⅰ、Ⅱ 身体疾患と障害Ⅲ
成績評価の方法	評価時期：定期試験による採点が基本ですが、出席率が低い、授業態度が悪い場合は、減点します。
その他 受講生への要望等	遅刻、欠席をしない。授業中、寝ない。 眠くなるようであれば、水分補給や洗面所で顔を洗う等の対策を取る。 できる限りメモを取る習慣をつける。

授業科目名	精神の評価Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	①野尻真生　①田村勇樹		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	精神保健福祉領域の臨床において必要となる作業療法評価について，模擬症例を用いて体系的に学ぶ．アセスメントからアプローチ（①評価内容の読み取り，②問題点・肯定的に理解したい点の抽出，③焦点化，④目標設定）について，講義で概要を伝え，各自まとめ考察した内容をレポートで提出するとともに発表（シェア）する形式と主とする．			
授業科目の到達目標	・ 精神保健領域のアセスメントについて説明することができる． ・ 動作と行為の障害について例を交えて説明することができる． ・ 精神障害の特性について説明することができる． ・ データの整理・要約をすることができる． ・ 焦点化について説明することができる． ・ 目標設定について説明することができる． ・ 作業療法の流れに沿って，症例について表記し，その理由・根拠を明示できる． ・ 症例の生活（映像）から観察したこと，感じたこと，思ったこと，考えたことについて客観的事象と主観的内容に分けて表現することができる．			

授業スケジュールと内容

回	担当	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	野尻・田村	映像から症例の生活をみる（1） ～アセスメントとアプローチの視点①～ key：映像や文献から症例の生活を知る	講義 演習	症例の生活について 文献の感想について
2	野尻・田村	アセスメントの視点（道具） ～アセスメントからアプローチへ（基本）～ key：カンファレンスシート	講義 演習	カンファレンスシートについて
3	野尻・田村	症例〈H.S〉に学ぶ（1） ～アセスメントからアプローチへ～ key：評価のまとめ	講義 発表 演習	評価のまとめについて
4	野尻・田村	症例〈H.S〉に学ぶ（2） ～アセスメントからアプローチへ～ key：問題点・肯定的に理解したい点	講義 発表 演習	問題点・肯定的に理解したい点について
5	野尻・田村	症例〈H.S〉に学ぶ（3） ～アセスメントからアプローチへ～ key：焦点化	講義 発表 演習	
6	野尻・田村	症例〈H.S〉に学ぶ（4） ～アセスメントからアプローチへ～ key：焦点化	講義 発表 演習	焦点化について
7	野尻・田村	症例〈H.S〉に学ぶ（5） ～アセスメントからアプローチへ～ key：長期目標・短期目標	講義 発表 演習	長期目標・短期目標について
8	野尻・田村	症例〈H.S〉に学ぶ（6） ～アセスメントからアプローチへ～ key：長期目標・短期目標	講義 発表 演習	長期目標・短期目標について
9	野尻・田村	評価からアプローチプログラムの企画・立案までの整理 key：復習・確認	講義・発表	課題のまとめ

10	野尻・田村	症例〈H.S〉に学ぶ(7) ～グループワークを通しての事例検討会～ key:グループメンバーとの意見交換(シェアリング)	グループ ワーク	レポート課題の振り返り
11	野尻・田村	症例〈H.S〉に学ぶ(8) ～グループワークを通しての事例検討会～ key:グループメンバーとの意見交換(シェアリング)	グループ ワーク	レポート課題の振り返り
12	野尻・田村	映像から症例の生活をみる(2) ～アセスメントとアプローチの視点②～ key:客観と主観の違い	講義	第4回課題「症例の生活について」の振り返り
13	野尻・田村	映像から症例の生活をみる(3) ～アセスメントとアプローチの視点③～ key:映像の症例の生活を言葉で表現する	演習	第4回課題「症例の生活について」の振り返り
14	野尻・田村	振り返りとまとめ ～全体の振り返りと試験課題の確認～	講義	課題のまとめ
15	野尻・田村	統合と解釈	試験	レポート提出 プレゼンテーション 筆記試験

使用テキスト	「精神障害と作業療法　新版」山根　寛　著. 三輪書店.
参考書・資料　等	1)「精神科作業療法の手引き」松井　紀和　著. 牧野出版. 2)「統合失調症患者(分裂病者)の行動特性」昼田　源四郎　著. 金剛出版. 3)「ひとと集団・場～集まり, 集めることの利用～」山根　寛　他著. 三輪書店.　他
この授業科目の前提となる主な科目	1年前期「心理学」, 1年後期「臨床心理学」 2年前・後期「精神医学」、2年後期「精神疾患と障害Ⅰ」「精神の評価Ⅰ」「家族機能の評価」
この授業科目から発展する主な科目	3年後期「精神疾患と障害Ⅲ」,「評価実習」 4年前期「臨床実習」
成績評価の方法	課題提出(5 点),「今日の 200 字」提出(5 点) レポート課題(30 点), 筆記試験(20 点), プレゼンテーション(30 点)
その他 受講生への要望等	評価実習を目前とした模擬症例検討の授業です. 自身が臨床での実習を行っている状況をイメージして主体的に授業に取り組んでください.

授業科目名	発達の評価Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	①稲毛　優希　①岡田　岳		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	8 回	
単　位　数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	発達の評価Ⅰで学んだことを踏まえ，発達過程における疾患について知識を深める． 発達領域の臨床において必要となる作業療法評価について，体系的に学ぶ．			
授業科目の到達目標	・発達過程における疾患について、障害構造や特性について説明することができる． ・発達過程における疾患の作業療法評価について説明することができる． ・学んだ視点から症例をアセスメントすることができる．問題点の抽出，焦点化，目標設定をし，その理由や根拠について説明することができる．			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	稲毛	授業オリエンテーション・「発達」に関する知識の確認	講義	
2	稲毛	脳性麻痺について	講義	
3	稲毛	重症心身障害児について	講義	小テスト
4	稲毛	二分脊椎症，Down 症候群について	講義・演習	レポート課題①
5	稲毛	症例検討：アセスメント・問題点の抽出・焦点化・目標設定	講義・演習	レポート課題②
6	岡田	自閉症スペクトラムについて	講義	
7	岡田	LD について	講義	
8	岡田	ADHD について	講義	
9	稲毛	定期試験	試験	

使用テキスト	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト　発達障害作業療法学（第 3 版）：神作一実；メジカルビュー社
参考書・資料　等	1）発達障害（作業療法全書）：田村良子著；協同医書出版 2）発達障害の作業療法　基礎編・実践編：岩崎清隆　他著；三輪書店 3）発達障害作業療法学　第 2 版：神作　一美　編；メジカルビュ-社 4）イラストでわかる発達障害の作業療法：辛島　千恵子編；医歯薬出版
この授業科目の前提となる主な科目	発達の評価Ⅰ、作業療法評価学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	発達の構築、作業療法評価学実習Ⅱ
成績評価の方法	1）　定期試験：70%（稲毛担当分：40%、岡田担当分：30%） 2）　レポート：20%（課題①：5%、課題②：15%）　　3）小テスト：10%
その他 受講生への要望等	

授業科目名	作業療法評価学実習Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	①大橋　①中澤　①野尻　①田村　①岡田　①稲毛		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	30 回	
単　位　数	2 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	身体領域、精神領域、発達領域における評価、治療に関する知識と技術を習得する。			
授業科目の到達目標	・身体領域における検査測定の技術を習得できる。 ・脳血管障害患者を中心とした、介助技術を習得できる。 ・対象者に合わせた支援、援助ができる。 ・精神科デイケアの書類に関して理解できる ・精神科で使用する評価スケールを使用できる。 ・正常発達の評価を実施することができる。 ・各施設で評価実習を学ぶにふさわしい知識・態度・技術を身に付けている。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	大橋	身体領域の評価技術の復習 BRS-T、感覚検査、バランス検査、腱反射、 筋緊張、片麻痺患者の評価	実習	
2	大橋	〃	実習	
3	大橋	基本動作の介助技術（ポジショニング）	実習	
4	大橋	〃　　（寝返り）	実習	
5	大橋	基本動作の介助技術（起き上がり）	実習	
6	大橋	〃　　（立ち上がり）	実習	
7	大橋	基本動作の介助技術（移乗）	実習	
8	大橋	〃	実習	
9	大橋	症例検討（グループワーク）	実習	
10	大橋	〃	実習	
11	大橋	症例検討発表	実習	
12	大橋	〃	実習	
13	中澤	MMT・ROM の復習	実習	
14	中澤	MMT・ROM の復習	実習	
15	中澤	MMT・ROM の復習	実習	
16	田村	【精神領域】 精神科作業療法部門の案内・書類について	実習	
17	野尻	【精神領域】 精神科デイケア部門の案内・書類について	実習	
18	野尻	【精神領域】 精神領域の評価尺度について	実習	

19	野尻・田村	【精神領域】 NPI 興味関心チェックリスト、社会生活能力アセスメントシート、IMMD カウンセリングシートについて	実習	
20	野尻・田村	【精神領域】 NPI 興味関心チェックリストの演習・社会生活能力アセスメントシートの演習・IMMD カウンセリングシートの演習①	実習	
21	野尻・田村	【精神領域】 NPI 興味関心チェックリストの演習・社会生活能力アセスメントシートの演習・IMMD カウンセリングシートの演習②	実習	
22	野尻	【精神領域】 精神薬理について	実習	
23	野尻・田村	【精神領域】 映画から統合失調症を学ぶ(1)	グループワーク	
24	野尻・田村	【精神領域】 映画から統合失調症を学ぶ(2)	グループワーク	
25	岡田・稲毛	【発達領域】 正常発達のアセスメントについて グループごとに計画立案	グループワーク	
26	岡田・稲毛	【発達領域】 正常発達の評価を実施する	実習	
27	岡田・稲毛	【発達領域】 正常発達の評価を実施する	実習	レポート課題
28	岡田・稲毛	【発達領域】 評価結果の解釈とふりかえり	グループワーク	
29	田村	OSCE オリエンテーション	講義・演習	
30	全員	OSCE	OSCE	
31	大橋	定期試験	実技試験	

使用テキスト	1)能登真一 他 編:標準作業療法学専門分野 作業療法評価学.第4版,医学書院,2024 2)井口恭一 著:イラストわかりやすい移動のしかた. 第3版, 三輪書店 3)配布資料
参考書・資料 等	1)日本リハビリテーション医学会編:義肢装具のチェックポイント.第 8 版,医学書院,2014 2)矢崎潔編:手のスプリントのすべて.第 4 版,三輪書店,2015 3)古川宏編:作業療法全書.第 9 巻.作業療法技術学 1.義肢装具,協同医書出版社,2009 4)その他、随時紹介
この授業科目の前提となる主な科目	1)運動学Ⅱ 2)身体の評価Ⅰ 3)発達の評価Ⅰ 4)作業療法評価学実習Ⅰ 5)整形外科学 6)精神疾患と障害Ⅰ、Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	1)評価実習 2)作業治療学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価時期:1)出席状況 2)定期試験 3)レポート課題 4)OSCE 評価対象及び配分:1)30 回中 24 回以上の出席 2) +3) +4) 100% ＊1)を満たしかつ 2)+3)の 60%を基準に科目の合格とする。
その他 受講生への要望等	基礎となる科目を復習しておくこと。 評価実習に向けた知識の統合と解釈および技術の向上を望む。 OSCE は外部評価者の協力で成り立つ試験である。礼節を大切にすること。 発達領域の実習授業は、出席が前提になりますので欠席しないよう注意してください。

授業科目名	身体疾患と障害Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	①大橋由美子　①中澤文亮		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	身体機能作業療法学の基礎を学び身体障害領域における作業療法評価を適切に実施できるようにする。身体障害領域における作業療法対象疾患の特徴を捉える。各疾患における作業療法評価・治療・指導・援助方法を教授する。			
授業科目の到達目標	・　各疾患の特徴を述べることができる。 ・　各疾患における作業療法評価方法を適切に選択できる。 ・　各疾患における作業療法評価を実施することができる。 ・　各疾患における作業療法治療・指導・援助方法を説明することができる。 ・　3 年生後期の学外実習に必要な知識をみにつける。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	中澤	脊髄損傷	講義	出席状況
2	中澤	脊髄損傷	講義	〃
3	中澤	脊髄損傷	講義	〃
4 5 6	大橋	脳血管障害 CVA の病態の復習と ADL 評価、ADL アプローチを学ぶ。 模擬症例を通して、臨床思考過程を学ぶ。	講義	〃
7	中澤	関節リウマチ	講義	〃
8	中澤	関節リウマチ	講義	〃
9	中澤	整形外科疾患（骨折）	講義	〃
10	大橋	神経変性疾患①：パーキンソン病 病態・症状の理解、Hoehn ＆ Yahr stage の理解した上で、ADL の困難性に対するアプローチとプログラムについて学ぶ。	講義	チェックリスト
11	大橋	神経変性疾患②：パーキンソン病関連疾患 進行性核上麻痺、多系統萎縮症、ハンチントン舞踏病などの病態を理解し、作業療法アプローチを学ぶ。	講義	チェックリスト
12 13	大橋	神経変性疾患③ 進行性疾患に対する作業療法アプローチの考え方、脊髄小脳変性症、ギランバレー症候群、ALS、MS 等の病態を理解し、その人らしい生活をするための作業療法支援を学ぶ。	講義	チェックリスト
14	大橋	頭部外傷 頭部外傷の種類と病態を理解し、高次脳機障害を中心に生活で起こる様々な困難性に関する作業療法支援を学ぶ。	講義	チェックリスト
15		定期試験	試験	

使用テキスト	1)山口 昇編集:標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学.第 3 版,医学書院,2016 2)ゴールドマスター・テキスト「日常生活活動(ADL)」
参考書・資料 等	1)日本作業療法士協会編:作業治療学1身体障害作業療法学全書.第4巻, 協同医書出版,2008 2)石川齋編:図解作業療法技術ガイド.第 2 版,文光堂,2006 3)聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部作業療法:OT 臨床ハンドブック増補版. 三輪書店,2007 4)その他、随時紹介
この授業科目の前提となる主な科目	1)医学概論・一般臨床医学 2)内科学・老年学 3)整形外科学 4)臨床神経学ⅠⅡ
この授業科目から発展する主な科目	1)評価実習 2)身体疾患と障害Ⅲ 3)老年期障害Ⅱ 4)作業治療学実習Ⅱ
成績評価の方法	定期試験・レポート・出席状況 出席率、授業態度によって定期試験の点数を減点します。
その他 受講生への要望等	基礎となる科目を復習しておくこと 課題提出期限を厳守すること

授業科目名	身体疾患と障害Ⅲ		実務経験講師	○
担当教員名	①大橋由美子		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	後期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	主に脳血管障害対する機能回復訓練の実際を学ぶ。脳卒中ガイドラインの見方、またそこに掲載されているアプローチについての概要を説明する。実際に手技を実践できることが目的ではなく、患者の状態像に合わせてその時々に適切な治療アプローチを選択することができるように、医学的根拠から治療を導き出せることを目標とする。			
授業科目の到達目標	□　脳血管障害を有する患者の神経回復の過程が理解できる □　脳卒中ガイドラインを活用できる □　機能回復訓練の手技の概要を理解できる □　評価実習の現場で見た訓練の内容と結びつけて授業を受けることができる □　訓練の基盤となる医学的根拠の需要性を知ることができる □　一つの手法に偏ることなく、患者にあった治療法を選択することができる			

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	脳血管障害に対するアプローチ(1) key word:脳卒中ガイドライン、脳の可塑性、半球間抑制、神経筋促通手技	講義形式 一部演習	配布資料
2	脳血管障害に対するアプローチ(2) key word:ニュ-ロリハビリテーション、CI 療法、ロボットを用いたリハ、川平法など	講義形式 一部演習	配布資料
3	脳血管障害に対するアプローチ(3) key word:プッシャー症候群、端座位、リーチ動作、空間認知	講義形式 一部演習	配布資料
4	脳血管障害に対するアプローチ(4) key word:ワイピング、サンディング、随意性、回数	講義形式 一部演習	配布資料
5	脳血管障害に対するアプローチ(5) key word:手指機能の回復機能訓練	講義形式 一部演習	配布資料
6	感覚障害に対するアプローチ(1) key word:感覚の再教育、アクティブタッチ、リスク管理、痺れ	講義形式 一部演習	配布資料
7	感覚障害に対するアプローチ(1) key word:エガースの作業療法	講義形式 一部演習	配布資料
8	覚醒レベルの低い患者に対するアプローチ key word:急性期の意識障害、廃用予防、声かけ、傾眠傾向、覚醒のタイミング、感覚刺激	講義形式 一部演習	配布資料
9	失語症・コミュニケーションが難しい方へのアプローチ key word:失語症、構音障害、注意障害、心理状態	講義形式 一部演習	配布資料
10	小脳性運動失調に対するアプローチ key word:体操、PNF、重錘バンド、目と手の協調、スプリント、ADL の質を挙げる、食事	講義形式 一部演習	配布資料
11	高次脳機能障害に対するアプローチ key word:回復の考え方、ADL の自立度への影響、失語症、失行	講義形式 一部演習	配布資料
12	高次脳機能障害に対するアプローチ key word:記憶障害、エラーレス学習	講義形式 一部演習	配布資料

13	注意障害に対するアプローチ key word:空間性注意と非空間性注意、注意の神経ネットワーク、声かけの仕方	講義形式 一部演習	配布資料
14	半側空間無視に対するアプローチ key word:視覚操作訓練、プリズム眼鏡、鏡の活用、身体図式、空間座標	講義形式 一部演習	配布資料
15	定期試験	記述試験	

使用テキスト	指定テキストはありません。 スライド資料を配布します。
参考書･資料　等	授業内で提示します
この授業科目の前提となる主な科目	臨床神経学Ⅰ・Ⅱ、身体の評価Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	臨床実習
成績評価の方法	定期試験を実施。 出席率、授業態度によって定期試験より減点しますので、ご注意ください。
その他 受講生への要望等	評価実習で見学、体験した様々な作業療法を思い出しながら授業を受けましょう、

授業科目名	精神疾患と障がいⅡ		実務経験講師	○
担当教員名	①田村　勇樹　①岡田　岳　①野尻　真生		実務経験	作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3年次	授業回数	15 回	
単　位　数	3単位	単位時間数	45 時間	
授業科目の概要	精神科作業療法の治療構造および治療理論を理解する。 精神疾患と障害Ⅰで学んだ事を踏まえ、精神科臨床に於ける疾患別アプローチの視点についての理解を深める。			
授業科目の到達目標	授業の具体的な到達目標としては以下の点を理解できること 1.　精神科作業療法とは何をすることか説明することができる。 2.　病気や障がいの回復過程を理解し説明できるようになる。 3.　治療過程とはどのようなことか説明できるようになる。 4.　回復過程に応じた作業療法の目的を説明できるようになる。 5.　治療の構造を理解し説明することができる。 6.　治療構造の特徴を理解し説明できるようになる。 7.　作業療法の治療要因を理解し説明できるようになる。 8.　集団の構造を理解し説明することができる。 9.　Mosey の集団関係技能の発達を理解し説明できるようになる。 10.　集団過程を促進させるリーダーの役割を理解し説明できるようになる。 11.　各疾患に対する作業療法に必要な知識と技術について理解する。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	岡田	オリエンテーション／精神疾患と障がいⅠの授業の振り返りと復習（治療構造を中心に）	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
2	岡田	治療者の態度 ・教科書　P.57～P.153 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
3	岡田	作業の用い方1 ・教科書　P.57～P.153 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
4	岡田	作業の用い方2 ・教科書　P.57～P.153 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
5	岡田	プログラム（個別／集団）の特性を知る1 ・教科書　P.122～P.130 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
6	岡田	プログラム（個別／集団）の特性を知る2 ・教科書　P.122～P.130 ・配布資料	講義 中間試験	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める 中間試験の準備
7	田村	統合失調症のアプローチ方法と捉え方・考え方 ・教科書 精神機能作業療法学　第3版　P.94～P.114 精神障害と作業療法＜新版＞2023　P.35～P.56 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める

8	田村	気分障がい(躁鬱病)領域のアプローチの方法と捉え方・考え方 ・教科書 精神機能作業療法学　第３版　P.115～P.130 精神障害と作業療法<新版>2023　P.35～P.56 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
9	田村	神経症領域のアプローチの方法と捉え方・考え方 ・教科書 精神機能作業療法学　第3版　P.131～P.141 精神障害と作業療法<新版>2023　P.35～P.56 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
10	岡田	てんかんのアプローチの方法と捉え方・考え方 ・教科書 精神機能作業療法学　第２版　P.184～P.192 精神障害と作業療法<新版>2023　P.35～P.56 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
11	岡田	精神発達遅滞のアプローチ方法と捉え方・考え方 ・教科書 精神機能作業療法学　第3版　P.169～P.185 精神障害と作業療法<新版>2023　P.35～P.56 配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
12	田村	パーソナリティ障がいのアプローチの方法と捉え方・考え方 ・教科書 精神機能作業療法学　第3版　　P.154～P.168 精神障害と作業療法<新版>2023　P.35～P.56 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
13	野尻	摂食障がい関連のアプローチ方法と捉え方・考え方 ・教科書 精神機能作業療法学　第３版 P.142～P.153 精神障害と作業療法<新版>2024　P.35～P.56 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
14	野尻	依存症領域におけるアプローチ ・教科書 精神機能作業療法学　第3版 P.84～P.93 精神障害と作業療法<新版>2024　P.35～P.56 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
15	田村	矯正・更生保護領域(医療観察法)におけるアプローチ ・教科書 精神機能作業療法学　第3版 P.279～P.290 精神障害と作業療法<新版>2024　P.35～P.56 ・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
16	岡田	定期試験		試験

使用テキスト	精神障害と作業療法<新版>第３章, 第４章,第７章:山根寛,三輪書店 新宮尚人　他　編:標準作業療法学専門分野　精神機能作業療法学.第4版,医学書院,2020
参考書・資料　等	精神医学テキスト<改訂第５版>:上島国利他,南江堂 ひとと集団・場－集まり、集めることの利用　第２版:山根寛著, 三輪書店 精神科作業療法の手引き一診断から治療まで一:松井紀和編著, 牧野出版 精神疾患の理解と精神科作業療法　:朝田隆、堀田英樹　他, 中央法規出版

この授業科目の前提となる主な科目	精神医学ⅠⅡ、精神疾患と障がいⅠ、精神の評価Ⅰ、作業療法評価学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	精神疾患と障がいⅢ、作業療法評価学実習Ⅱ、作業療法評価学実習Ⅲ、精神の評価Ⅱ、 評価実習、臨床実習
成績評価の方法	1)中間試験(40%)・定期試験(50%) 2)レポート(10%) 3)出席状況および授業態度
その他 受講生への要望等	精神保健領域の治療理論の基本となる教科です。なかでも臨床実習においては、この教科の内容がわからないと実習になりません。 学習のポイントとしては、ただ暗記する作業に没頭するのではなく情景をイメージしながら理解していくことが大切です。 分からない事をわからないままにせずに一つ一つ確認しやっていきましょう。

授業科目名	精神疾患と障害Ⅲ		実務経験講師	○
担当教員名	①野尻真生　①田村勇樹		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	後期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	本授業科目では，精神障害（リアリティとしての「生きづらさ」をも含む）を抱える当事者が，回復と成長（Recovery ＆ Growth Model）の道程を歩む際，一専門職として出来るアプローチ（援助）について学ぶ．特に、症例研究を通し，精神力動の視点を土台に，ソーシャル・スキル等々の援助技法の理解を深めていく．			
授業科目の到達目標	・　評価実習の振り返り（学んだこと・思い感じ覚えたことなど）をシェアリングできる． ・　評価実習地の OT プログラムや特長・特徴などについてまとめ、考察できる． ・　評価実習を経験した施設のOTプログラムを共有できる． ・　治療計画立案までの流れとその内容について説明できる． ・　症例のアプローチ・プログラムについて、小グループで検討することができる． ・　症例のアプローチ・プログラムについて、小グループで検討した内容を発表できる． ・　症例のアプローチ・プログラムについて、クラス全体で意見交換できる．			

授業スケジュールと内容

回	担当	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	野尻・田村	精神保健福祉領域におけるアプローチとは（1） ～オリエンテーション～ key：評価実習　振り返り	講義・発表	First　Impression の移り変わりワークシート
2	野尻・田村	精神保健福祉領域におけるアプローチとは（2） ～担当症例やプログラムを通しての振り返り～ key：評価実習　振り返り	講義・発表	実習施設の OT プログラムについて
3	野尻・田村	精神保健福祉領域におけるアプローチとは（1） ～プログラムを通しての振り返りと共有～ key：体験・経験したプログラム　振り返り　共有	発表	
4	野尻・田村	精神保健福祉領域におけるアプローチとは（1） ～プログラムを通しての振り返りと共有～ key：体験・経験したプログラム　振り返り　共有	発表	今日の 200 字
5	野尻・田村	模擬症例研究（1） ～アセスメントからアプローチへ～ key：適応　修正　段階づけ　リスク	講義	今日の 200 字
6	野尻・田村	模擬症例研究（2） ～アセスメントからアプローチへ～ key：作業の選択　集団　場　時間・頻度・期間	グループワーク	今日の 200 字
7	野尻・田村	模擬症例研究（3） ～アプローチの検討～ key：焦点化	グループワーク	今日の 200 字
8	野尻・田村	模擬症例研究（4） ～アプローチの検討～ key：目標設定	グループワーク	今日の 200 字
9	野尻・田村	模擬症例研究（5） ～アプローチの検討～ key：プログラム検討	グループワーク	今日の 200 字

10	野尻・田村	模擬症例研究（6） ～アプローチのまとめ～ key：共有（シェアリング）	発表	今日の 200 字
11	野尻・田村	模擬症例研究（7） ～アプローチのまとめ＆再検討～ key：共有（シェアリング）	グループワーク	今日の 200 字
12	野尻・田村	担当症例研究（1） ～担当症例の再検討～ key：症例検討	講義	今日の 200 字 作業療法の流れ 担当症例レポート
13	野尻・田村	担当症例研究（2） ～カンファレンス～ key：検討、共有（シェアリング）	グループワーク カンファレンス	今日の 200 字
14	野尻・田村	担当症例研究（3） ～カンファレンス＆まとめ～ key：検討、共有（シェアリング）	グループワーク カンファレンス	今日の 200 字
15	野尻・田村	統合と解釈 Key：筆記試験、症例発表、プレゼンテーション	筆記試験 プレゼンテーション	担当症例レポート

使用テキスト	1)山根寛　著：精神障害と作業療法　新版．三輪書店． 2)小林夏子　他著：精神機能作業療法学　第 2 版．医学書院
参考書・資料　等	1)「精神科作業療法の手引き」松井　紀和　著．牧野出版． 2)「統合失調症患者（分裂病者）の行動特性」昼田　源四郎　著．金剛出版． 3)「ひとと集団・場　新版」山根　寛　著．三輪書店．　他
この授業科目の前提となる主な科目	1 年「心理学」「人間関係」「臨床心理学」 2 年「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「精神疾患と障害Ⅰ」「精神の評価Ⅰ」 3年「精神の評価Ⅱ」「精神疾患と障害Ⅱ」「評価実習」
この授業科目から発展する主な科目	4年「臨床実習」
成績評価の方法	「First Impression の移り変わり」（5点），「今日の 200 字」（5点）， 「作業療法の流れ」（5点），グループレポート・発表（5点）， レポート課題（30 点），筆記試験（20 点），プレゼンテーション（30 点）
その他 受講生への要望等	評価実習での体験・経験を踏まえて行う症例検討の授業です．4 年次の臨床実習で評価～治療プログラムを行っている状況をイメージして主体的に授業に取り組んでください．対話中心の授業となりますので、積極的に担当教員やクラスメイトと意見交換を行い，幅広い視点で物事を捉えられるようになることを望んでいます．

授業科目名	老年期障害		実務経験講師	○
担当教員名	①中澤　①大橋　①岡田　①野尻		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	後期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	高齢社会が進む日本において、作業療法士の役割は大きい。この授業では、介護予防の観点から終末期まで、それぞれの領域での作業療法アプローチを学ぶ。また、高齢者がかかる疾患を中心に各論を展開し、さらに、主に介護保険領域における施設、通所、訪問系のサービスでの作業療法士の役割をそれぞれの事例を通して学んで行く。			
授業科目の到達目標	❑ 高齢社会の問題や取り巻く現状を理解できる。 ❑ 高齢期に多い疾患に対して、作業療法アプローチが理解できる。 ❑ 認知症に対する作業療法の役割とアプローチを理解できる。 ❑ 介護保険領域の作業療法を「施設」「通所」「訪問」別に、アプローチの違いを理解できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	大橋	【総論】高齢者に対する作業療法 2025 年問題が差し迫り、超高齢化社会の日本における課題と作業療法士の役割を学ぶ。	講義	
2	大橋	【各論】認知症の方に対する作業療法① 認知症患者の症状に合わせたリハビリテーションを学ぶ。 ウェルビーイングの考え方に沿った作業療法を考える。	講義	
3	大橋	【各論】認知症の方に対する作業療法② バリデーション療法、現実見当識療法、感覚刺激療法、脳活性化リハビリテーションなど、認知症で活用されるセラピーを学び、作業療法としての考え方を学ぶ。	講義	
4	中澤	【各論】高齢者に多い骨折のリハビリテーション① ～骨折の画像のみかたなど基本的評価～ ・血液検査や画像の診かたなど基礎的な部分から骨折名など基本的な部分を理解する	講義	
5	中澤	【各論】高齢者に多い骨折のリハビリテーション② ～大腿頸部骨折などの作業療法評価、治療～ ・作業療法を実施する上で必要な評価および作業療法について理解する	講義	
6	中澤	【各論】内部疾患（心血管）に対するリハビリテーション ・疾患の基礎知識（心電図、採血）およびリスク管理を中心に理解する	講義	
7	中澤	【各論】腎疾患・糖尿病に対するリハビリテーション ・疾患の基礎知識（診断基準等）およびリスク管理を中心に理解する	講義	
8	中澤	【各論】がんのリハビリテーション	講義	
9	中澤	【作業療法士による介入】介護予防と作業療法 高齢期に多いフレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについての病態理解と介護状態に陥るまでの経過について理解し、介護予防の重要性と作業療法の役割を学ぶ	講義	

10	岡田	【作業療法士による介入】 通所系サービスにおける作業療法	講義	
11	岡田	【作業療法士による介入】 入所系サービスのおける作業療法	講義	
12	大橋	【作業療法士による介入】訪問作業両方 高齢者の作業療法における実践報告を通して、高齢期作業療法の役割、重要性を学ぶ。	講義	
13	野尻	【高齢者のこころ】 高齢者の心理的側面の特徴と作業療法士の役割	講義	
14	野尻	【高齢者にこころ】 高齢者の QOL に対する作業療法士の役割	講義	
15		定期試験		

使用テキスト	随時資料を配布
参考書･資料　等	随時紹介
この授業科目の前提となる主な科目	内科学、一般臨床医学、精神医学Ⅱ、身体の評価Ⅱ、評価実習
この授業科目から発展する主な科目	臨床実習
成績評価の方法	試験もしくは課題レポート 点数配分は後日伝達
その他 受講生への要望等	内容としては、真新しい内容よりも、今までにも習ってきた内容が多く含まれます。 2年生までの授業内容を思い出しながら、老年期障害に対して総合的な解釈が可能になるように、学んでいきましょう。

授業科目名	生活の再構築		実務経験講師	○
担当教員名	①大橋由美子　①中澤文亮		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	対象者の病前と同じような生活を送りたいというニードに対して、作業療法士は様々な手段や方法を用いて、その思いを支援していかなければならない。特に、その人らしい生活を考えるためには、機能的な回復だけなく、代償的な手段を用いる必要がある。この授業では、対象者の問題点を適切に抽出するための手段（ICF・MTDLP）を理解しながら、代償的手段である福祉用具や住宅改修について学ぶ。			
授業科目の到達目標	□　ICF・MTDLP の活用方法を理解し、実際に使用することができる。 □　作業療法の治療的手段の一つである、代償的アプローチ（福祉用具・住宅改修）について理解することができる。 □　自助具の作成を通して、自助具の必要性と需要を理解することができる。 □　活動の基本である起居動作について、運動学的分析が可能になる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	大橋	【福祉用具概論】 福祉用具の定義とリハビリテーションにおける位置付け。福祉用具の関連法規、情報収集の仕方など	講義	出席状況
2	大橋	【福祉用具の種類】 車椅子、杖、歩行器、入浴用具、段差解消関連、ベッド関連、手すり、コミュニケーションエイド、自助具（食事用具、更衣用具等）	講義	〃
3	大橋	【自助具の作成】 リーチャーの作成を通して、自助具に使用する道具や安全性や費用について理解する。リーチャーの利用方法を知り、手作り自助具の利点と欠点を理解する。	演習	〃
4	大橋	〃	演習	〃
5	大橋	【住環境整備】 高齢者・車椅子ユーザーの住環境を理解する。	講義	
6	大橋	【住宅改修の実際】 住宅改修の事例を通して、住宅改修のポイントを理解する。	講義	
7	大橋	【ICF の活用】 ICF の概要とコード分類について	講義 演習	
8	大橋	【ICF の活用】 事例を通して、ICF の活用方法を学ぶ。	演習	〃
9	大橋	【生活行為向上マネジメント】 MTDLP が作られた背景とどのような構成となっているかを理解する。	講義	〃
10	大橋	【生活行為向上マネジメント】 事例を通して、MTDLP の活用方法を学ぶ。	演習	演習参加状況
11	中澤	動作分析を臨床で生かす	講義	〃
12	中澤	動作分析を臨床で生かす	講義	〃
13	中澤	動作分析を臨床で生かす	講義	〃

14	中澤	動作分析を臨床で生かす	講義	〃
15		定期試験	試験	

使用テキスト	1)ゴールドマスター・テキスト日常生活活動学(ADL) その他配布資料あり
参考書・資料　等	ゴールドマスターテキスト「福祉用具学(改訂第 2 版)」
この授業科目の前提となる主な科目	運動学Ⅰ・Ⅱ、運動学実習Ⅰ・Ⅱ、身体の評価Ⅰ・Ⅱ、作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ 身体疾患と障害Ⅰ・Ⅱ、作業治療学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	1)評価実習　2)身体疾患と障害Ⅲ　3)老年期障害Ⅱ　4)作業治療学実習Ⅱ
成績評価の方法	定期試験・レポート・出席状況(欠席・遅刻が多い、授業態度が悪い場合は減点)
その他 受講生への要望等	基礎となる科目を復習しておくこと 課題提出期限を厳守すること

授業科目名	発達の構築		実務経験講師	○
担当教員名	①稲毛　優希　①岡田　岳		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	後期	
年　次	3 年次	授業回数	8回	
単　位　数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	発達の評価Ⅰ・Ⅱ，発達領域演習・実習で学んだことを踏まえ，発達領域おけるアプローチについて理解を深める．			
授業科目の到達目標	・　発達過程における疾患について、生活場面での課題について学び、理解を深める． ・　発達過程における疾患をもつ対象者に対する支援について、その概要を学ぶ． ・　学んだ視点から症例をアセスメントし，問題点の抽出，焦点化，目標設定，治療プログラムを立案し，その理由や根拠について説明することができる			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	稲毛	オリエンテーション 子どもの発達を支援する・1（ADL/生活リズム）	講義	
2	稲毛	子どもの発達を支援する・2（ADL/排泄，更衣）	講義	
3	稲毛	子どもの発達を支援する・3（ADL/移動，ポジショニング）	講義	
4	岡田	子どもの発達を支援する・4（ADL/食事）	講義	
5	岡田	子どもの発達を支援する・5（ADL/食事）	講義	
6	岡田	子どもの発達を支援する・6（遊び/感覚統合）	講義	
7	岡田	問題行動とアプローチのまとめ（CBT/PT）	講義	
8	岡田	まとめ（法律・制度・社会資源について）	講義	
9	稲毛	定期試験	試験	

使用テキスト	1）写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法【第 10 版】：前川喜平　著：南山堂 2）知りたかった！PTOT のための発達障害ガイド：新田収　他編；金原出版株式会社
参考書・資料　等	1）発達障害の作業療法　基礎編・実践編：岩崎清隆　他著；三輪書店 2）発達障害作業療法学　第 2 版：神作　一美　編；メジカルビュ-社 3）イラストでわかる発達障害の作業療法：辛島　千恵子編；医歯薬出版 4）生涯人間発達学．上田礼子　著：三輪書店
この授業科目の前提となる主な科目	運動学、人間発達学、作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ、発達の評価Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	作業治療学実習Ⅱ、臨床実習Ⅰ・Ⅱ
成績評価の方法	定期試験　100％
その他 受講生への要望等	評価学で学んだ知識を活かし、具体的なアプローチの方法について学ぶ

授業科目名	家族機能の再構築		実務経験講師	○
担当教員名	渡邉　厚司		実務経験	作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	精神保健福祉領域の臨床において必要となる家族機能の再構築について，システム理論・構造理論・コミュニケーション理論・精神分析理論・ナラティブ理論等の観点からのアプローチを体系的に学ぶ.			
授業科目の到達目標	・ 家族システムの発達の 7 段階とその内容について説明することができる. ・ 家族への臨床アプローチの技法（リフレーミング等）の概要について説明することができる. ・ パートナー関係の機器と援助について説明することができる. ・ 子育てをめぐる問題（虐待等）と援助について説明することができる. ・ 家族が経験するストレスと援助について説明することができる. ・ 家族の中のコミュニケーションについて説明することができる. ・ 「女性と家族」「男性と家族」の各々特徴について説明することができる. ・ 描画法（S-HTP、K-F-D 等）による家族機能の理解の仕方について説明することができる. ・ 症例に学ぶ家族機能へのアプローチのポイントについて説明することができる.			

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	家族機能の再構築とは ～オリエンテーション＆家族の発達（1）～ Key:「間のび現象」「第一次変化」「第二次変化」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
2	家族の発達（2）～独身の若い成人期～ Key:「経済的自立と心理的自立」「親密さへの恐怖」「源家族との関係と配偶者選択」 / 教科書 P41～P59，配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
3	家族の発達（3） ～「結婚による家族の成立期」「乳幼児を育てる段階」～ Key:「夫婦が抱える心理的問題と悪循環」「子どもの誕生をめぐるさまざまなストレス」「子どもの心身の発達を促進する母親機能」 / 教科書 P61～P96，配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
4	家族の発達（4） ～「小学生の子どもとその家族」「若者世代とその家族」～ Key:「親たちの経験」「移行期の家族システム」「親たちの思秋期」 / 教科書 P97～P130，配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
5	家族の発達（5）～「老年期の家族」～ Key:「高齢化の現況と家族」「高齢者のいる家族の家族構成の変化」「高齢者虐待」 / 教科書 P131～P153，配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
6	家族と臨床的諸問題～そのアプローチ（1）～ Key:「パートナー関係の危機と援助」「子育てをめぐる問題と援助」 / 教科書 P157～P214，配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
7	家族と臨床的諸問題～そのアプローチ（2）～ Key:「家族が経験するストレスと援助」「家族の中のコミュニケーション」「女性と家族」「男性と家族」 / 教科書 P215～P292， 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.

8	家族カウンセリングの実際 Key:「マイクロカウンセリング」「基本的かかわり技法」「焦点のあてかたの技法」「積極的にかかわる技法」「対決技法」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
9	描画法による家族機能の理解～S-HTP の基礎①～ Key:「実施の留意点」 / 配付資料	試験	○ここまでの配布セルフチェックポイントの確認をする.
10	描画法による家族機能の理解～S-HTP の基礎②～ Key:「S-HTP のアセスメント」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
11	描画法による家族機能の理解～K-F-D の基礎①～ Key:「実施の留意点」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
12	描画法による家族機能の理解～K-F-D の基礎②～ Key:「K-F-D のアセスメント」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
13	描画法による家族機能の理解～描画の発達～ Key:「なぐり描き期」「象徴期」「図式期」「写実期」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
14	症例に学ぶアプローチの実際 Key:「ジェノグラム・アプローチ」 / 配付資料	講義	○配布セルフチェックポイントをまとめ理解を深める.
15	知識の整理と統合 Key:ここまでの授業のポイントの再確認をする.	試験	○ここまでの配布セルフチェックポイントの確認をする.

使用テキスト	「家族心理学～家族システムの発達と臨床的援助～」中釜洋子 他著. 有斐閣ブックス.
参考書・資料 等	1)「家族のゆくえ～新しい家族社会学～」中村正 著. 人文書院. 2)「ジェノグラム～家族のアセスメントと介入～」モニカ・マクゴールドリック 他著. 渋沢田鶴子監訳. 金剛出版. 3)「家族アセスメント PartⅠ～ジェノグラム・エコマップの描き方と使い方～」 小林奈美 著. 医歯薬出版. 4)「家族アセスメント PartⅡ～ファシリテートのエキスパートをめざして～」 小林奈美 著. 医歯薬出版.
この授業科目の前提となる主な科目	1年前期「心理学」, 1年後期「臨床心理学」 2年前・後期「精神医学」, 2年後期「精神疾患と障害Ⅰ」「精神の評価Ⅰ」「家族機能の評価」
この授業科目から発展する主な科目	3年前期「精神の評価Ⅱ」「家族機能の再構築」「精神疾患と障害Ⅱ」 3年後期「精神疾患と障害Ⅲ」,「評価実習」 4年前期「臨床実習」
成績評価の方法	筆記試験(100 点)
その他 受講生への要望等	症例理解とアプローチのため、家族理解への関心を広げてください. 自身が臨床での実習を行っている状況をイメージして主体的に授業に取り組んでください.

授業科目名	治療環境の構築		実務経験講師	○
担当教員名	①中澤文亮　①飯塚裕介　②向山弘一		実務経験	①作業療法士 ②理学療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	身体領域、精神領域、発達領域における評価、治療に関する知識と技術を習得する。			
授業科目の到達目標	・装具の基礎知識と疾患別装具療法について説明できる。 ・義手の種類や構造、適合判定を説明できる。 ・補助具について説明できる。 ・スプリントを作成できる。 ・物理療法について説明できる。 ・動作分析が適切に行うことができる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	中澤	【身体領域】 義肢装具概論	講義、演習	
2	中澤	【身体領域】 上肢装具（名称・種類・操作方法） 下肢装具・体幹装具（名称・種類・操作方法）	講義、演習	
3	中澤	【身体領域】 疾患別装具療法（疾患の特徴と上肢装具の適合）	講義、演習	
4	中澤	【身体領域】 義手概論（名称、種類、操作方法など）	講義、演習	
5	飯塚	【身体領域】 スプリントの基礎（基本構造、名称、種類など）	講義、演習	
6	飯塚	【身体領域】 スプリント製作実習（スプリント製作、cook up splint）	講義、演習	
7	飯塚	【身体領域】 スプリント製作実習（スプリント製作、cook up splint）	講義、演習	
8	中澤	【身体領域】 義肢装具のまとめ	講義、演習	
9	向山	【身体領域】 物理療法実習（種類、方法、作業療法との関連など）	講義、演習	
10	向山	【身体領域】 歩行補助具の選択（名称、種類、使用方法など）	講義、実習	
11	中澤	【身体領域】 車いすの選択および適合 モジュラー車いす、電動車いす（名称、種類、適合など）	講義、実習	
12	中澤・大橋	【身体領域】 身体領域における評価	講義、演習	
13	中澤・大橋	【身体領域】 身体領域における評価	講義、演習	

14	中澤・大橋	【身体領域】 身体領域における評価	講義、実習	
15	中澤	定期試験		

使用テキスト	配布資料
参考書・資料　等	
この授業科目の前提となる主な科目	1)整形外科学　2)臨床神経学ⅠⅡ
この授業科目から発展する主な科目	1)評価実習　2)身体疾患と障害Ⅲ　3)作業治療学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：1)出席状況、実習状況　2)第 13 回のレポート 3)実習・演習状況　4)定期試験 評価対象及び配分 ①大橋、中澤の実技に関しては、この科目で評価します。 ②出席状況（欠席、遅刻の多さ）、授業態度（寝ている、メモを取らないなど）は、減点対象となります。
その他 受講生への要望等	基礎となる科目を復習しておくこと 課題提出期限を厳守すること 実習および演習授業は積極的に参加すること

授業科目名	作業治療学実習Ⅰ		実務経験講師	○
担当教員名	①大橋由美子　①野尻真生		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単　位　数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	2年生までに習得した作業療法に関する知識や評価を統合的に判断し、適切な問題点を導き出し、治療計画を立案できることを目標とする。模擬症例を通して、一連の作業療法の考え方を学び、また事例報告書の作成も行う。			
授業科目の到達目標	❏ 事例報告書に記載する項目の意味を理解し、実際に記載できる ❏ 評価結果に対して予後予測や対象者の背景を踏まえ、考察することができる ❏ 作業療法の目標の意味を理解し、症例に対して適切に立案することができる			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	大橋	身体分野：模擬症例（1） 模擬症例の情報提供、資料の取り扱い	講義形式	
2	大橋	身体分野：模擬症例（2） 評価のまとめに対する考察① key word：考察、予後予測、脳卒中ガイドライン、	講義形式	
3	大橋	身体分野：模擬症例（3） 評価のまとめに対する考察② key word：考察、感覚障害、半側空間無視、意性の訓練	講義形式	
4	大橋	身体分野：模擬症例（4） 評価のまとめに対する考察③ key word：ADL の予後予測、排泄の評価、介助の原因	講義形式	
5	大橋	身体分野：模擬症例（5） 評価のまとめに対する考察④ key word：ADL の予後予測、優先順位の考え方	講義形式	
6	大橋	身体分野：模擬症例（6） 目標の設定① key word：長期目標と短期目標、期間設定、病期	講義形式	
7	大橋	身体分野：模擬症例（7） 目標の設定② key word：長期目標と短期目標、期間設定、病期	講義形式	
8	大橋	身体分野：模擬症例（8） 治療計画立案① key word：治療計画、アプローチ	講義形式	
9	大橋	身体分野；模擬症例（9） 治療計画立案② key word：治療計画、アプローチ	講義形式	
10	大橋	症例報告書のまとめかた	講義形式	
11	野尻	精神分野： 集団に対するアセスメントの視点とアプローチの実際① key word：スポーツ、集団記録、集団評価	講義形式	

12	野尻	精神分野： 集団に対するアセスメントの視点とアプローチの実際② key word：スポーツ、集団記録、集団評価	演習形式	
13	野尻	精神分野： 集団に対するアセスメントの視点とアプローチの実際③ key word：話し合い、集団記録、集団評価	演習形式	
14	野尻	精神分野： 集団に対するアセスメントの視点とアプローチの実際④ key word：話し合い、集団記録、集団評価	演習形式	
15		定期試験		

使用テキスト	特になし、各領域で使用する教科書などを適時使用します
参考書・資料　等	随時配布
この授業科目の前提となる主な科目	身体疾患と障害Ⅰ・Ⅱ、精神疾患と障害Ⅰ・Ⅱ、身体の評価Ⅰ・Ⅱ、精神の評価Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	評価実習、臨床実習 作業治療学実習Ⅱ
成績評価の方法	身体分野（70%）精神分野（30%） それぞれ、レポート課題、講義内での演習、発表、記述試験を総合的に判断 遅刻、欠席の回数についても考慮します。 大橋担当分は、出席状況（欠席・遅刻の多さ）、授業態度の悪さを減点対象とします。 レポート提出が遅れた場合は、大幅減点、未提出は単位取得不可となります。
その他 受講生への要望等	演習やレポート課題が多い授業です。積極的に取り組み、早めにレポートを仕上げ、教員からのフィードバックを受けるようにして下さい。

授業科目名	作業治療学実習Ⅱ		実務経験講師	作業療法士
担当教員名	①大橋 ①岡田 ①稲毛 ①中澤 ①田村		実務経験	○
開講年度	2025 年度	学　期	後期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	3年前期の「作業治療学実習Ⅰ」で治療アプローチの基本を学び、評価実習において実際の作業療法場面を経験した上で、更に治療アプローチを学ぶ機会とする。 身体領域、精神領域、発達領域における基本的かつ代表的な治療技術を学び、習得し、臨床実習で活かすことができる。			
授業科目の到達目標	❏ 評価実習で担当した症例に対して、適切な作業療法目標と治療計画が立案できる。 ❏ 症例報告書を作成することができる。 ❏ 自分の考えを論理的に述べることができ、他者と有意義なディスカッションを行うことができる。 ❏ 基本的な治療アプローチの内容を理解できる。 ❏ 精神領域で代表的な SST の技法を学び、実践できる。 ❏ 発達領域の評価を実施できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	大橋	【身体領域】症例報告書の作成についての概要説明 評価実習で担当した症例に対して振り返る機会を持ち、より症例に対する理解を深める。学生自身が考えた目標、プログラムに対して教員がアドバイスを行いながら、事例報告書としてまとめる。	講義	
2 3 4	大橋・中澤	【身体領域】症例発表 事例報告書をまとめたものを元に、パワーポイントまとめ、学会発表と同じ要領で発表し、質問に答える。また、他の学生の発表を聞くことで、様々な症例を追体験し、学ぶ。	発表	
5	中澤	【身体領域】呼吸器疾患の理論と実際①	講義	
6	看護教員	【身体領域】呼吸器疾患と理論と実際②	演習	
7	田村	【精神領域】精神科におけるアプローチ～SST の基本技法を学ぶ～	講義	
8	田村	【精神領域】精神科におけるアプローチ～SST の基本技法を学ぶ～	講義	
9	田村・岡田	【精神領域】精神科におけるアプローチ～SST を演習を通して学ぶ～	演習	
10	田村・岡田	【精神領域】精神科におけるアプローチ～SST を演習を通して学ぶ～	演習	
11	岡田・稲毛	【発達領域】発達過程における疾患に対する評価計画立案	グループワーク	
12	岡田・稲毛	【発達領域】発達過程における疾患に対する評価計画立案	グループワーク	
13	岡田・稲毛	【発達領域】評価実施	実習	レポート課題
14	岡田・稲毛	【発達領域】評価結果の解釈とふりかえり	グループワーク	
15		定期試験		

使用テキスト	随時紹介
参考書・資料　等	随時紹介 症例発表に関しては、各個人でジャーナル等の文献を活用すること。
この授業科目の前提となる主な科目	評価実習、作業治療学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	臨床実習
成績評価の方法	1）　出席、受講・実習状況 2）　身障領域の症例発表は、最終提出日までに複数回フィードバックを受けることが必須となっており、それが十分でない場合は、大幅減点となります。 3）　筆記試験 4）　レポート課題
その他 受講生への要望等	評価実習で経験したことを思い出しながら積極的な授業の参加に努めること。 発達領域の実習授業は，出席が前提になりますので欠席しないよう注意してください。

授業科目名	地域作業療法学Ⅰ		実務経験講師	○
担当教員名	岡田　岳		実務経験	作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	8 回	
単　位　数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	職業リハビリテーションの意義と歴史、関係制度を理解し、作業療法士の役割と支援に必要な知識と技法を習得する。			
授業科目の到達目標	授業の具体的な到達目標としては以下の点を理解できること ①「働く」意味の多様性を理解できる。 ②キャリア発達の概念、職業的発達課題などを理解し、発達過程に応じた支援の重要性を理解できる。 ③職業リハビリテーションの歴史を理解し説明できる。 ④職業リハビリテーションの原則を理解できる。 ⑤職業リハビリテーションに関係した職業評価を理解し実施できるようになる。 ⑥就労支援の流れを理解できる。 ⑦IPS の原則を理解できる。 ⑧就労支援の具体的な支援技法（システマティックインストラクション）を理解し実施できるようになる。 ⑨就労に関する法律、制度を理解できる。 ⑩障害者総合支援法を理解できるようになる。			

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	オリエンテーション、「働く」とは？ 「働く」とは？何か？働く意味を知ろう。 働く意味の多様性を理解しよう。 ・教科書：P1～13（第 1 章）P61～91（第 3 章）・配布資料	前半：講義 後半：実技演習	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
2	職業リハビリテーションの歴史・就労支援とキャリア発達の視点 ①キャリアとは？何か。発達過程に応じた支援とは何か？ 理解しよう。ライフキャリアの虹、職業的発達課題とは何か 説明できるようにしよう。 ②職業リハビリテーションの歴史を理解しよう。 ③現行の法律は何か？法定雇用率は何%か？対象企業はどんな企業 が対象か？障がい雇用納付金制度とは？　具体的に整理しよう。 ④職業リハビリテーションに関係した用語を覚えよう。 ・教科書：P 14～18, P61～91（第1章）・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
3	職業評価　1 ・職業リハビリテーションの原則を理解しよう。 ・職業リハビリテーションに関係した職業評価を理解 し実施できるようにしよう。 ・教科書：P8・配布資料・作業療法評価学第4版 P613～628	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
4	職業評価　2 一般職業適性検査を実施してみよう。 ・教科書：作業療法評価学第4版 P613～628　・配布資料	実技演習	検査結果をレポートにまとめる
5	職業リハビリテーション　方法と技法Ⅰ　（IPS） （1）IPS の基本 8 原則を理解しよう。 （2）就労支援の流れを理解しよう。 （3）就労支援の具体的技術を学ぼう。 ・教科書：P91～27（第2章）　　・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める

6	職業リハビリテーション　方法と技法Ⅱ 援助付き雇用について理解しよう ・教科書：P91～27（第2章）　　・配布資料	講義 演習	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
7	障害特性に配慮した支援方法　・　まとめ ・教科書：P91～27（第2章）　　・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
8	関係制度／障害者総合支援法 就労支援に関連する施設とその内容を理解しよう。 各種制度を理解しよう。 ・教科書：P58～72（第2章）　　・配布資料	講義	セルフチェックポイントをまとめ理解を深める
9	定期試験	試験	

使用テキスト	職業リハビリテーションの基礎と実践
参考書・資料　等	「図解　障害者総合支援法　早わかりガイド」：山内　一永　著；日本実業出版 職業リハビリテーション学　第２版：松為信雄・菊池恵美子；協同医書出版 標準作業療法学　専門領域　作業療法評価学　第4版：能登真一　他編；医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	作業療法評価学実習Ⅰ、臨床実習（評価実習、臨床実習）
この授業科目から発展する主な科目	基礎作業学総論Ⅰ、Ⅱ
成績評価の方法	1）定期試験（95％） 2）レポート（5％） 3）出席状況および授業態度
その他 受講生への要望等	法律用語が非常に多く出てきますが、労働基準法など自分たちの将来にも必要な知識です。 理解ができないことがあればすぐに確認しに来てください。

授業科目名	地域作業療法学実習		実務経験講師	○
担当教員名	①岡田　岳　①野尻真生　①稲毛優希　①田村勇樹		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単　位　数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	地域におけるクライエント（対象者）へのアプローチ方法の習得を目的に行う．作業療法の専門領域（身体障害・精神保健福祉・発達障害・老年期障害）において，各々の特性に見合ったアプローチ方法が展開されている。本授業科目を通し、「クライエント（対象者）が地域で暮らすことの意味や意義」について考察しつつ、アプローチ方法を学ぶ。			
授業科目の到達目標	クライエント（対象者）が地域で暮らすことの意味や意義を考察できる． 各専門領域の特性に見合ったアプローチ方法について説明できる． 地域における作業療法アプローチについて説明できる．			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	岡田	高齢者に対する社会制度、社会資源① ・介護保険制度	講義	なし
2	岡田	高齢者に対する社会制度、社会資源② ・介護保険制度	講義	
3	岡田	高齢者に対する社会制度、社会資源③ ・介護保険制度	講義	
4	岡田	人のこころと自然（1） ～那須ロングトレイルにむけての事前準備～ key：人　こころ　自然　リハビリテーション	講義	
5	岡田	人のこころと自然（2） ～那須ロングトレイル～ key：人　こころ　自然　リハビリテーション	実習	
6	岡田	ひとり暮らしを支える（1） ～障害者総合支援法と精神保健福祉施設～ key：精神保健福祉　制度　施設	講義	
7	岡田	ひとり暮らしを支える（2） ～障害者総合支援法と精神保健福祉施設～ key：精神保健福祉　制度　施設	講義	
8	岡田	ひとり暮らしを支える（3） ～障害者総合支援法と精神保健福祉施設～ key：精神保健福祉　制度　施設	講義	
9	岡田	多職種連携教育（IPE）（1） ～各職種の専門性を活かした連携のあり方について事例を通じて学ぶ～	演習・実習 グループ ワーク	なし
10	岡田	多職種連携教育（IPE）（2） ～各職種の専門性を活かした連携のあり方について事例を通じて学ぶ～	演習・実習 グループ ワーク	なし
11	野尻	災害リハビリテーション（1） ～災害リハビリテーションの実際～ key：災害リハビリテーション、トリアージ、	講義	

12	野尻	災害リハビリテーション(2) ～災害支援シミュレーション～ key:支援、交通機関、移動	グループ ワーク	
13	野尻	災害リハビリテーション(3) ～支援・受援を考える～ key:支援、受援	発表	グループ課題発表
14	岡田・稲毛	子どもの療育の実際(1) ～施設見学実習～ key:発達障害　療育　施設見学	実習	
15	岡田・稲毛	子どもの療育の実際(2) ～施設見学実習～ key:発達障害　療育　施設見学	実習	レポート課題
16	岡田	定期試験		1～3回、8・9回の講義の試験

使用テキスト	特になし
参考書・資料　等	1)谷中輝雄　他編集:障害者・精神保健地域看護活動. 医学書院. 2)山内一永　著:図説　障害者総合支援法　早わかりガイド. 日本実業出版社
この授業科目の前提となる主な科目	地域作業療法学Ⅰを主とした作業療法専門科目
この授業科目から発展する主な科目	地域作業療法学Ⅱを主とした作業療法専門科目
成績評価の方法	試験・レポート・グループ課題・出席状況
その他 受講生への要望等	15 回の授業にて5つのテーマを取り扱う実習授業です. 各担当教員の掲げるテーマ・目的を確認して取り組んで下さい.

授業科目名	評価実習		実務経験講師	○
担当教員名	①臨床実習指導者　①岡田　①大橋　①野尻 ①稲毛　①中澤　①田村		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	後期	
年　次	3 年次	授業回数	1 週 45 時間×4 週間×2 期	
単 位 数	8 単位	単位時間数	360 時間	
授業科目の概要	臨床実習指導者のスーパーバイズのもと、作業療法参加型実習で評価について体系的に習得する。			
授業科目の到達目標	①評価実習に対しての目標を設定できる。 ②臨場実習指導者監督下にて評価の計画・実施・振り返りができる。 ③実習経験についてデイリーノート・ケースノートにまとめ提出できる。 ④実習経験について要点をまとめた報告書（レジュメ）を提出できる。 ⑤実習経験について知識・技術（技能）・態度の 3 側面から振り返ることができる。			

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	評価実習Ⅰ（4週間）	実習	
2	評価実習Ⅱ（4週間）	実習	

使用テキスト	特になし
参考書・資料　等	特になし
この授業科目の前提となる主な科目	3年次前期までのすべての科目（特に作業療法専門科目）
この授業科目から発展する主な科目	3年次評価実習セミナー、後期作業療法専門科目 4年次臨床実習
成績評価の方法	評価実習Ⅰ・Ⅱの総合評定
その他 受講生への要望等	作業療法士を目指す上で必要な経験となります。積極的な態度で臨んでください。

授業科目名	評価実習セミナー		実務経験講師	○
担当教員名	①岡田岳　①大橋由美子　①野尻真生　①稲毛優希 ①中澤文亮　①田村勇樹		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学　期	後期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単　位　数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	評価実習で学んだ評価技術を復習しつつ、治療技術を学ぶ。 身体障害分野・精神保健分野で特に習得すべきアプローチについての基礎を学ぶ			
授業科目の到達目標	①実習経験について、要点をまとめたレジュメを提出できる。 ②実習経験について、要点をまとめ発表できる。 ③実習経験について、意見交換ができる。 ④評価技法の振り返りができる。 ⑤実習時の症例に対して、治療プログラムを立案できる。			

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	評価実習の振り返り	意見交換	
2～5	症例検討会：身体障害分野（1期目）	症例検討会	
6～9	症例検討会：精神保健分野（1期目）	症例検討会	
10～12	症例検討会：身体障害分野（2期目）	症例検討会	
13～15	症例検討会：精神保健分野（2期目）	症例検討会	

使用テキスト	特になし
参考書・資料　等	特になし
この授業科目の前提となる主な科目	3年時前期までのすべての科目（特に作業療法専門科目）
この授業科目から発展する主な科目	臨床実習、3年次後期作業療法専門科目
成績評価の方法	レジュメ提出・内容、発表ならびに質疑応答の内容
その他 受講生への要望等	実習経験者同士の意見交換をもとに症例検討会は行われます。積極的に参加を望みます。

授業科目名	薬理学		実務経験講師	○
担当教員名	小菅　敏雄		実務経験	薬剤師
開講年度	2025 年度	学　期	前期	
年　次	3 年次	授業回数	15 回	
単　位　数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	薬理学は「薬物と生体との相互作用の結果起こる現象を研究する科学である。各疾患の理学療法を展開するうえで薬の効果と副作用を知っておくことは患者の治療訓練として必要である。			
授業科目の到達目標	①薬理作用と作用機序が理解できる。 ②薬物動態（生体内運命）と薬効を学習する。 ③副作用と有害作用を学習する。 ④医薬品の管理について学習する。 ⑤各疾患の治療薬を学習する。			

授業スケジュールと内容

回	内　　容	授業方法	課題／小テスト
1	薬物とは	講義	
2	薬物と法令	講義	
3	薬物の作用	講義	
4	薬物の作用	講義	
5	薬物の適用	講義	
6	漢方薬とは、薬物の適用	講義	
7	薬物の体内動態	講義	
8	薬物の代謝	講義	
9	全身麻酔薬	講義	
10	催眠薬、抗不安薬	講義	
11	精神・神経科用薬	講義	
12	抗うつ薬	講義	
13	抗てんかん薬、パーキンソン病薬	講義	
14	麻薬・消毒薬	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	中村丁次　新看護学　栄養　薬理（第 17 版）医学書院
参考書・資料　等	
この授業科目の前提となる主な科目	生理学、病理学
この授業科目から発展する主な科目	理学療法症例研究、作業治療学実習、評価実習、臨床実習
成績評価の方法	1）定期試験　　2）その他
その他 受講生への要望等	